

『標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学 第2版』 正誤表

このたびは『標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学 第2版』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。第1刷（2021年10月15日発行）におきまして以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2022年1月11日作成

刷数	訂正箇所	誤	正	掲載
1	90ページ、本文左段、8行目、図番号の誤り	さらに、下腿の前面を支点とする股・膝関節の屈伸運動（measuring worm exercise）により、遠心性トレーニングも実施する（▶  12E, F）	さらに、下腿の前面を支点とする股・膝関節の屈伸運動（measuring worm exercise）により、遠心性トレーニングも実施する（▶  12C, D）	2022/1/11
1	90ページ、本文左段、12行目、図番号の誤り	逆にPCL損傷/再建膝では腹臥位で下腿遠位部を支点とし、腋窩部から負荷（前方剪断力）を加えることにより、整復位で大腿四頭を強化する（▶  12C）	逆にPCL損傷/再建膝では腹臥位で下腿遠位部を支点とし、腋窩部から負荷（前方剪断力）を加えることにより、整復位で大腿四頭を強化する（▶  12E）	2022/1/11
1	90ページ、本文左段、15行目、図番号の誤り	また、下腿近位部を支点としたスリングブリッジ（sling bridge）により、股関節の伸展運動でハムストリング筋力の維持をはかる（▶  12D）	また、下腿近位部を支点としたスリングブリッジ（sling bridge）により、股関節の伸展運動でハムストリング筋力の維持をはかる（▶  12F）	2022/1/11